

従業員の皆さんへ

毎日のお仕事ご苦労様です。

新型コロナの国内での感染者が2020年1月15日に初めて確認されてから、丸三年が過ぎました。

この3年間で生活様式が大きく変わり、当初は試行錯誤で行っていた感染予防対策も日常生活の一部となりました。最初の頃の行動制限も緩和されコロナ前の生活に戻りつつある中で、感染拡大に伴い感染者数・死者数の増加と3年ぶりのインフルエンザの感染拡大が心配されています。

新型コロナの感染症法での季節性インフルエンザと同等の「第5類」への引き下げが今春5月8日に実施されることが決まり、罹患者・濃厚接触者の自宅待機やマスク着用義務も撤廃されることとなりました。

感染拡大前の日常に戻れる日も近づいてきたようです。

2023年最初の衛生委員会通信は、ここ数年続けている「STOP！転倒災害プロジェクト」についてです。

転倒災害は、労働災害(休業4日以上)の死傷災害の4分の1を、また休まれる6割が1ヶ月以上、女性が6割を占めており、最近の高齢者雇用の拡大もあり50代以上が7割を占める大きな問題となっています。

皆さんも他人事とは考えずに、今回の内容を参考に日頃から注意してくださいね。

職場でこんなことはありませんか？



床が水で濡れていて滑った！



階段を踏み外した！



雨の日に滑って転んだ！



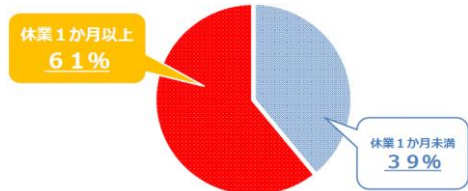
梱包用のバンドに引っかかって転んだ！

工作中なら、これらは全て労働災害です！

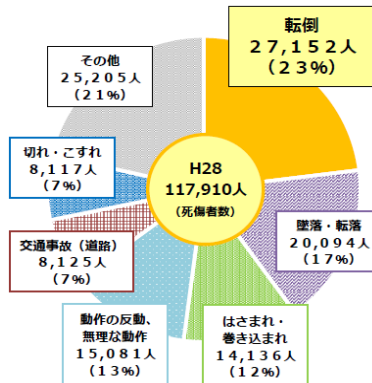


電源コードに引っかかって転んだ！

転倒しただけで労働災害につながるというと大きさに思われるかもしれませんが、仕事中に転倒したことで4日以上仕事を休む方が年間3万人近くいます。約4分の労働時間に1人の頻度で、転倒災害(休業4日以上)が発生している計算になります。また、休業期間が長期におよぶこともあり、4日以上仕事を休まれる方の約6割の方が、1ヶ月以上の休業となっています。



平成28年度の労働災害による死傷者数



転倒災害の3つのパターン

転倒災害には3つの典型的なパターンがあります。

- ①「滑り」  
床の素材が滑りやすいものであったり、床に水や油が残ったままの状態であったりすると、滑って転倒しやすくなります。
- ②「つまづき」  
床に凹凸や段差があり、つまづいて転倒したという例が多くあります。また、放置されていた荷物や商品などにつまづいたというケースがあります。
- ③「踏み外し」  
大きな荷物を抱えて階段を降りるときなど、足元が見えづらいときに足を踏み外し、転倒することがあります。



滑り



つまづき



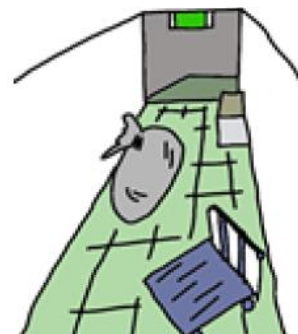
踏み外し

転倒災害を防ぐためには...

日頃から整理・整頓・清掃・清潔に取り組むことが、転倒災害を防ぐためには重要です。4Sと覚えてください。例えば、歩く場所に物を放置しない、床面の汚れを取り除く、こうしたことが転倒災害の防止につながります。



下の図で、4Sが何に当たるかお分かりでしょうか？



答え

- 整理：ごみを撤去
- 整頓：台車や荷物を収納・整列
- 清掃：床を隅々まで清掃
- 清潔：きれいな状態を実現・維持

転倒災害を防ぐためには、作業などを行う際、転倒しにくい方法で行うことも重要です。例えば、時間に余裕を持って行動する、滑りやすい場所では狭い歩幅でゆっくり歩く、足元が見えない状態で作業しない、といったことです。

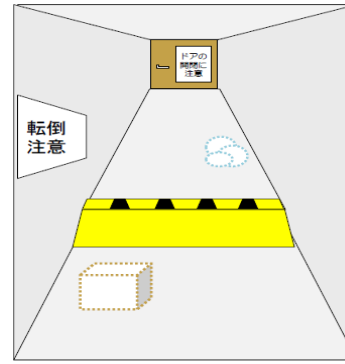
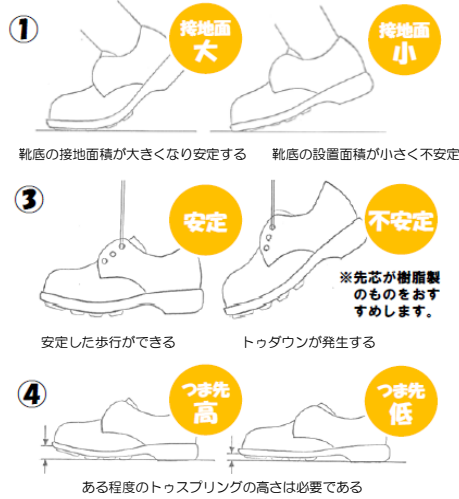
**あせらない 急ぐ時ほど 落ち着いて**

また、作業に適した靴を着用することも大切です。

**【POINT！】**

- ①靴の屈曲性
- ②靴の重量
- ③靴の重量バランス
- ④つまさき部の高さ
- ⑤靴底と床の耐滑性のバランス

さらに、靴を定期的に点検することも重要です。例えば、靴底がすり減ることで耐滑性は損なわれ、滑りやすくなります。



**答え**

- 床にある荷物や水たまりを取り除く
- スロープなどで段差を解消する またはトラテープなどで危険箇所を明示する
- ステッカーを掲示し、注意喚起する

**まとめ**

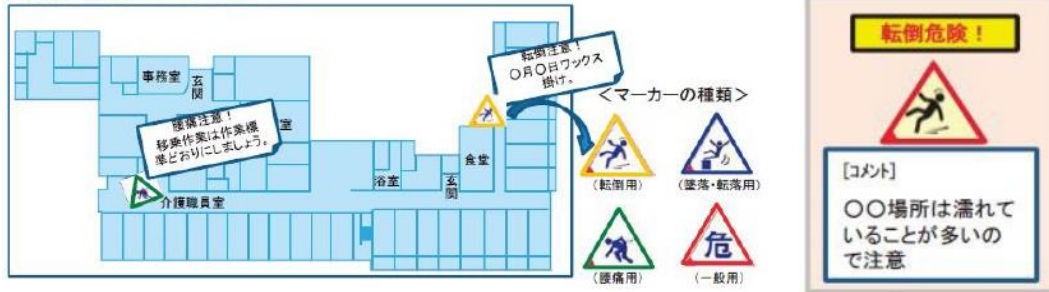
転倒災害には、「滑り」「つまずき」「踏み外し」の3つの典型的なパターンがあります。転倒災害を防止するためには、

- 4S（整理・整頓・清潔・清掃）に取り組むこと
- 転倒しにくい方法で作業すること
- 作業に適した靴を選び、定期的に点検すること
- 職場の危険マップを作成し、危険情報を共有すること
- 転倒の危険性がある場所にステッカーを掲示し、注意喚起すること などが重要です。

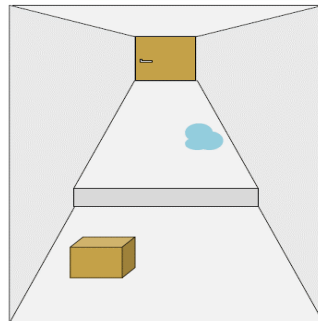
**職場の状況をチェックしてみましょう！**

そのほかにも、職場の危険マップを作成し、危険情報を共有すること、転倒の危険性がある場所にステッカーを掲示し、注意喚起することも重要です。

<危険マップ及びマーカ-のイメージ>



右の図のどこに転倒の危険があるかお分かりでしょうか？



チェック項目		<input checked="" type="checkbox"/>
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業に適したものを選び、定期的に点検していますか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促すステッカー（標識）をつけていますか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

冬場は、積雪や凍結で滑りやすい日も多くなります。職場以外でも転倒に気を付けて下さい。そして、今回の内容が、転倒(労働災害)の防止のヒントになれば幸いです。